

二月に、式部大輔中臣清麻呂朝臣の宅にして
宴する歌十五首

四四九六番

恨めしく 君はもあるか やどの梅の 散り過ぐ
るまで 見しめずありける

四四九七番

見むと言はば 否と言はめや 梅の花 散り過ぐ
るまで 君が来まさぬ